

尾道市社会福祉協議会 障害者福祉センターでは尾道市在住で療育手帳をお持ちの18歳以上の方を対象に「ふでふで工房」「チャレンジクッキング」「チャレンジタイム」「はーとらんど」「パソコン入門」などの教室を開催しています。

「ふでふで工房」は、十数年前に保護者が主体となって立ち上げた一番古くからある教室です。保護者のサポートを受けながら、約10名の方が毎月第一日曜日に集まって習っています。書きたい言葉を自分で考えて、講師にお手本を書いていただきます。皆さんとても意欲的で習字が好きなことが伺えます。毎年市役所で作品展を開催し、一年間の成果を発表しています。

「チャレンジクッキング」では、講師やボランティアと一緒に本格的な料理に挑戦します。役割分担して、皆で料理することで、責任感をもって、物を事をやり遂げる力を養っています。今はコロナでお休み中ですが、毎回たくさんの方が参加する人気の教室です。

「チャレンジタイム」では、小物を作ったり、抹茶を点てたり、いろいろな体験をする教室を開催しています。介助ボランティアに手伝ってもらいながら、毎回楽しく参加されています。

「はーとらんど」では、毎月第3日曜日に集まって、仕事のことや趣味のことなど自由におしゃべりし、休日の居場所・仲間づくりの場となっています。悩みを打ち明けるといふような意見が出て仲間意識も高まっています。

「パソコン入門」は、毎週金曜日の午前中に開催しています。1年間の48回のコースでパソコンの基本操作（文字入力・文章の作成、編集など）を学び、少し難しい操作にも一



第48回広島県知的障害者福祉大会実行委員長 尾道手をつなぐ育成会会長 三宅 春美

「このまちでふつうに生きたいな」

第48回広島県知的障害者福祉大会ならびに第21回はつらつ大会を、令和5年（2023年）10月22日（日）尾道びんご運動公園で開催することになりました。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、活動自粛が緩和されましたが、引き続き感染予防対策を充分に行いながらの大会となります。

尾道手をつなぐ育成会の結成当時の願いは「このまちでふつうに生きたいな」です。今回、この願いをメインテーマにしています。近年、障害者施策は大きく変革し、障害のある人達をとりまく環境は大きく変わりましたが、地域によっては利用できる障害福祉サービス等に格差が大きく、まだまだ充分とは言えません。また、親の高齢化や親なき後に本人がどのように暮らしていくのかも大きな課題です。

この町で誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現のため、乳幼児期から高齢になっても生涯を通しての、医療・福祉・教育などの関係機関とのとぎれないネットワークの輪を拡げていくことが大切だと思います。

今回は1時間半という短い時間ではありますが、コーディネーター 副島宏克氏、シンポジスト 田中貴美氏、田中洋子氏、一丸善樹氏をお招きして、「医療・福祉・教育など生涯にかけてとぎれないネットワークを拡げよう」というテーマでシンポジウムを行います。

10月22日は、ぜひ尾道にお越しいただき、本人・支援者・家族と共に考え、勉強したいと思っております。

最後に、本大会を開催するにあたり、尾道市をはじめ各行政や福祉団体、関係者の皆様にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

第 117 号

育成会 会報

令和5年度版

発行所
一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会

広島市西区打越町17-27
育成会総合福祉センター内
TEL (082)537-1773
FAX (082)537-1778
編集責任 金子麻由美

生懸命取り組まれ、たくさんの方が卒業しています。

どの教室でも積極的に参加をして楽しまれている姿が印象的です。これからも参加者に寄り添い、安心安全に教室を開催し、気軽に参加できる場として障害者福祉センターを利用していただけるよう取り組んでいきたいです。



「ふでふで工房」の作品



「チャレンジクッキング」で料理づくり

互助制度（旧付添看護料共済）

広島県手をつなぐ育成会 会員限定の保険です

- ①入院保険 病気やケガで入院したときの補償
- ②傷害保険 本人の傷害（ケガ）の補償
- ③他人への損害賠償金 他人への損害賠償

- 知的障害のある方対象
- 特別な審査は不要

プランは2つあります Aプラン（12,000円）、Bプラン（18,000円）／年間
補償内容（Bプランの場合 年間掛金 18,000円）

入院保険	・付添看護保険料	1日に付き	5,000～8,000円
	・差額ベッド費用	1日に付き	3,000円までの実費
	・入院諸費用	1日に付き	1,000円
	・入院一時金	1入院に付き	5,000円
傷害保険	・ケガによる入院	1日に付き	3,000円（180日限度）
	・ケガによる手術		15,000・30,000円
	・ケガによる通院	1日に付き	1,000円（90日限度）
	・ケガによる後遺障害		8万～200万円
	・ケガによる死亡		200万円
他人への損害賠償金	・対人・対物	1事故	5,000万円 限度（自己負担なし）

詳しい資料のご請求、お問い合わせは下記までどうぞ。
 <共済事務局> 一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会
 電話 082-537-1773 FAX 082-537-1778
 <保険委託引受会社> AIG保険会社 広島支店
 担当 ジェイアイシーウエスト広島株式会社
 電話 082-511-7025 FAX 082-511-7026

☎お気軽にお電話 ください。

「瀬戸の十字路でぎずなを深めよう」
第21回はつらつ大会（本人大会）尾道大会開催にあたって

みなさん、こんにちは。

ぼくは、エンジョイクラブ尾道代表の渡邊敬太です。

第21回はつらつ大会を尾道で開催することになりました。尾道は山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道、中国やまなみ街道が交差し瀬戸内の十字路に位置します。

そこで今回のスローガンは、「瀬戸の十字路でぎずなを深めよう」です。

行政の人との話し合い後、意見発表とレクリエーションにわかれ、意見発表は、「親なき後の生活について」、レクリエーションは、三原を拠点に親子で活動しているあすなる太鼓の演奏とスペシャルオリンピックス日本・広島 尾道支部フラダンスチーム ポエラニ尾道によるフラダンスの披露とその後にはポエラニ尾道さんとみなさんで一緒に踊りましょう。

開催にあたって、会場の確保や内容の検討など色々な方にアドバイスをいただきながら準備をしてきました。

県内の育成会の仲間とみなさんに会えることを楽しみにしています。みなさんふるって参加してください。お待ちしております。

はつらつ大会現地実行委員長
エンジョイクラブ尾道代表 渡邊敬太

尾道手をつなぐ育成会は、昭和36年に市内の特殊学級（現特別支援学級）の保護者と先生方で「尾道手をつなぐ親の会」として発足しました。結成当初より事務局を市内の小中学校に置き、校長先生をはじめ多くの先生方の協力で運営され保護者は親の部会で活動してきましたが、平成14年より親の部会と一本化して、その後は会長、事務局などの役員は保護者を中心として活動しています。昨年60周年を迎えることができました。

育成会での活動は、ここ数年コロナ禍により残念ながらほとんどの活動を中止せざるをえない状況となっていました。新型コロナウイルスの位置付けが5類感染症になりましたので、感染対策をしながら以前のよういろいろな活動を企画していきたいです。

《1年間の活動》

- ・ 施設見学
- ・ 同窓会
- ・ 親子ふれあい行事
- ・ 尾道福祉まつり 参加



楽しかった♪親子ふれあい行事・バス旅行



久しぶりに開催できた学習会で皆熱心に学習しました



「施設見学」は参加者の交流の場になっています

「尾道手をつなぐ育成会の活動」

・ 市への要望書提出
 ・ 育成会だよりの発行
 ・ 勉強会

施設見学では、この施設はどんな所？など「見てみたい！」となった所を見学に行きます。見学の後に食事会をして、保護者同士の交流を図っています。日頃の悩みや様々な思いを語り合うひと時を過ごしています。

同窓会は地域の小中学校を卒業後

の交流の場で、福祉センターにてフライングディスク、ポッチャなどで体を動かした後にみんなでお弁当を食べたり、近況を話したりと楽しい時間を過ごしています。

親子ふれあい行事は、地域支援参加事業の補助で日帰りのバス旅行をしていました。年々参加者が少なくなり、コロナ禍前には親子でボウリングを楽しんでいました。

勉強会は、ここ数年はコロナ禍で幾度も中止していましたが、4月に広島県手をつなぐ育成会活動部会から徳永玲子氏をお迎えして「元気に

なる学習会」を開催できました。この勉強会を皮切りに、以前のよういろいろな活動を企画、実行していきたいです。バス旅行のように参加者が少なくなってきたことや年齢の保護者の方々の入会が停滞していること等、課題もあります。そうした中で、状況にあわせて活動を見直したり、変更したりしながら、本人たちがこのまちでふつうに生活できるように、手と手をつないで活動していきたいです。

大会開催に寄せて

第48回広島県知的障害者福祉大会大会会長
 一般社団法人広島県手をつなぐ育成会会長 金子麻由美



第48回広島県知的障害者福祉大会ならびに第21回はつらつ大会（本人大会）を尾道市において、多くのご来賓の皆様をお迎えし、対面方式で開催できますことを大変うれしく思います。コロナ禍で閉塞感が強く、県内の各支部の活動が停滞してしまいましたが、再び活性化の道を開くことのできる状況となりました。

こうした中、主管を務めていただきます尾道手をつなぐ育成会の皆様におかれましては、コロナの収束を見ない状況での開催にご苦労をお掛けいたしました。開催に向けて、熱い思いをもって準備をしていただいておりますことからお礼申し上げます。

これまでの大会のように一日開催ではございませんが、まずは顔を合わせること「再会」からの「再開」です。皆様とお会いできますことを楽しみにしております。

本会のテーマは、「このまちでふつうに生きていたいな」です。障害のある本人の心からの願いです。誰もが地域で自分らしく安心して生きていくためには、今こそ私たち育成会が結束してネットワークを構築し、活動していかなければなりません。本大会を通して、「つながり」が「きずな」となっていくことを願い、テーマに迫ってまいります。

結びに、本大会の開催に多くの関係者の皆様から後援を賜りましたことに感謝申し上げますとともに、盛会裏に終わられるよう多くの皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

「ありやあなあ ぎょうさん きてつきやあさい まちよおるけん。」（あのおね たくさん おいでください お待ちしています。）

第48回広島県知的障害者福祉大会尾道大会・第21回はつらつ大会（本人大会）尾道大会

趣旨

尾道手をつなぐ育成会の結成当時の願いは、「このまちでふつうに生きていたいな」です。

障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、「障害者総合支援法」「障害者差別解消法」「障害者虐待防止法」等の法律が施行され、障害者施策は大きく変革しました。障害者福祉サービスも充実し、障害のある人たちを取り巻く環境は大きく変わりました。しかし、まだまだ充分とは言えず、地域によっては利用できる障害者福祉サービス等に格差が大きいことから本人にとって生きにくい状況があります。さらに、親の高齢化や親なき後に本人がどのように地域の中で暮らしていくのかも課題となっています。

誰もが安心してずっと暮らし続けられる地域社会の実現のため、医療、福祉、教育などの関係機関とのとぎれのないネットワークの輪を上げていくことが大切です。そして、誰もが生涯を通じて安心して暮らせる地域社会の実現を目指していきたいと思えます。

そのために、本人たちと共に大会を開催し、県内各地域の実践や課題を持ち寄って勉強し合うことで、育成会活動の充実を図ります。

主題

メインテーマ 「このまちでふつうに生きていたいな」
 ○一般大会 「誰もが地域で自分らしく生きていけるようネットワークの輪を上げよう」
 ○はつらつ大会（本人大会） 「瀬戸の十字路でできずなを深めよう」

開催日

令和5年（2023年）10月22日（日）

開催場所

びんご運動公園
 チャレンジこざかなくんアリーナ・サブアリーナ

シンポジウム内容

【テーマ】
 「医療、福祉、教育など生涯にかけて途切れないネットワークを上げよう」
 【コーディネーター】
 副島 宏克 氏（一般社団法人広島県手をつなぐ育成会顧問）
 【シンポジスト】
 田中 貴美 氏（広島県立尾道特別支援学校校長）
 田中 洋子 氏（広島女学院大学非常勤講師）
 一丸 善樹 氏（三矢会障害者相談支援事業所リガーレ所長）

開催日程

9:00	9:30	10:30	12:00	13:00	
受付	開会式	シンポジウム	大会決議 閉会式		
はつらつ大会（本人大会） 休演劇シューズ（上靴）とびらきダンスを付けてください					
9:00	9:30	10:00	10:30 10:45	12:15 12:30	13:00
受付	開会式	行政との話し合い	休憩	懇親発表 「親なき後の生活について」 レクリエーション	閉会式